

	長崎大学 農学分野
学部等の教育研究 組織の名称	水産学部（第1年次:110） 大学院水産・環境科学総合研究科（M:60 D:17）
沿革	昭和23（1948）年 長崎青年師範学校水産科設置 昭和24（1949）年 新制長崎大学水産学部設置 昭和45（1970）年 大学院水産学研究科修士課程設置 昭和63（1988）年 大学院海洋生産科学研究科博士課程設置 平成12（2000）年 大学院水産科学研究科，大学院海洋生産科学研究科， 大学院工学研究科を改組し，大学院生産科学研究科博士 前期・後期課程設置 平成23（2011）年 大学院生産科学研究科を改組し，大学院水産・環境科 学総合研究科，大学院工学研究科設置
設置目的等	<p>昭和23年，長崎県が「水産県」であることから水産業の振興等を目的として長崎青年師範学校水産科が設置され，新制大学の発足時にこれを長崎大学水産学部として承継した。</p> <p>昭和45年，広い視野に立って精深な学識を授け，専門分野における研究能力又は専門性を要する職業等に必要の高度な能力を養うことを目的に水産学研究科を設置した。</p> <p>昭和63年，水産学と工学の融合により海洋の総合的・学際的分野の教育・研究を行い，学際的知識と新しい研究方法を身に付けた人材養成のため海洋生産科学研究科博士課程を設置した。</p> <p>平成12年，生産に関する学際的教育研究を推進し，優れた人材養成のために水産学研究科，海洋生産科学研究科及び工学研究科を統合し，生産科学研究科を設置した。</p> <p>平成23年，生産科学研究科を改組し，水産科学，環境科学及び両者を融合させた学際的・総合的分野の教育研究を推進して，環境や食料等の問題解決に貢献する実践的指導力を持つ高度専門職業人並びに国際性の高い研究者等の人材育成を目的に水産・環境科学総合研究科を設置した。加えて，少数精鋭で国際的に卓越した研究者を養成することを目的に多分野の教員が総力を挙げて教育する5年一貫制博士課程を新たに設置した。</p>

<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>長崎大学は、東シナ海を中心とした水圏の環境とそこで育まれた食料の生産、生態環境の保全、生物資源の利用等、生命を支える水産科学を考究し、地域や社会はもとより海洋立国日本の発展に寄与することを旨とした教育、研究、社会貢献に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国際通用性のある教育プログラムを運用し、幅広い教養や倫理観を養い、食料、環境、資源等に関する基礎学力を授ける。生命と環境と海洋生産に関する学際融合科学の知識、技術及び指導力を有する高度な専門人材育成の役割を充実するとともに、国際的にリードする卓越した海洋フィールド科学者の人材育成の役割を果たす。</li> <li>○ 附属練習船による洋上教育と地域の水産関連業者との交流による課題解決型プロジェクトの実績を生かし、実践的問題を解決できる学生を育成するとともに、グローバルに活躍できる人材を育成する学部・大学院を目指して不断の改善・充実を図る。</li> <li>○ 海洋生物の細胞生化学や低次生物生産の制御に関する世界に通用する研究業績を生かし、高い生産性を持つ環東シナ海の環境の保全と修復、生物資源の管理と持続的生産、安全な食品供給に関する国際・学際研究を推進し、水産科学の発展に寄与する。また、ケニアのビクトリア湖周辺で水環境・水産業に関する共同研究を通じ、現地の若手研究者の育成等の国際貢献を推進する。</li> <li>○ 行政機関等の審議会等への参画・技術開発、長崎県下離島地域における水産業を核とした地域づくり支援など、地域社会に貢献してきた実績を生かし、周辺地域の幅広い水産関連産業の振興等に寄与する。</li> <li>○ 社会人教育プログラム「海洋サイバネティクスと長崎県の水産再生」事業による集学的アプローチに基づいた問題解決型の社会人の学び直しの機会を提供するとともに、主に本プログラム修了生に対して事業相談会や共同研究等を活用し、継続的に教育を行う。</li> </ul>
---------------------	---